



おもいやり通信

発行: 社会福祉法人 清水保育園
幼保連携型認定こども園 清水こども園
発行日: 令和7年7月1日

第 54 号



暑い日が続き、熱中症の対策で様々な活動に制限がありますが、こんな時こそ「**思いやりの心**」を大切に、お互いが協力して助け合っていくことが必要だと思います。園生活においても、ありがとう、だいじょうぶ等の声が自然と聞こえてきます。思いやりの心は、子どもたち、職員、ご家族の皆様等、園に関わる全ての人たちの心をつなぎ、みんなを元気にしてくれる幸せの魔法だと考えています。

今年度のメイン活動

<おもいやりカードづくり>

6月「てつだう」 11月「はげます」 2月「ありがとう」

《思いやりカード》

家庭から提出された思いやりパーツカード(4枚:保護者提出は3枚・1枚は担当で記入)を使って、個人の「思いやりカード」を作り年度末にプレゼントします。ハートの形のカードを使用し、4つ葉のクローバの形に貼り合わせていきます。

ご家庭へのお願い

思いやり集会の日(6・9・2月)に各家庭にカードを配布します。
自分のお子様に対しての6月「てつだう」 11月「はげます」 2月「ありがとう」をテーマにしたメッセージをカードに記入して1週間の間に提出して下さい。



<おもいやりテーマ> **てつだう・はげます・ありがとう**について
年間を通して実践していきましょう

思いやり3原則(手伝う・励ます・ありがとう)

- ①手伝う(他の人のために 喜んで手伝おう)
- ②励ます(元気づけよう、応援しよう、優しい心を送ろう)
- ③ありがとう(感謝の心で ありがとうを伝えよう)

令和7年度 第1回思いやり集会を開催

思いやり集会で思いやり3原則を再確認

令和7年6月9日(月)に今年度初めての思いやり集会を行いました。園長先生の話の後、思いやりテーマソング「おもいやりのうた」を歌い、各クラスから思いやり行動の発表等を行いました。その後、今年度の6月のテーマは、「てつだう」について子どもたちと話し合いをし、子どもたちから色々な言葉がでてきました。※各クラスの話し合いの様子は裏面をご覧ください。



思いやりの心を育てる3つのポイント

<子どもは自己中心的で当たり前>

まだ幼いお子さまにとって、世界は自分を中心に回っています。眠いとき、おなかがすいたとき、泣けばまわりの大人が動いてくれます。当然、自分中心でしか物事を考えられませんが、それはごく自然な成長の一過程です。だんだん大きくなるにつれ、「優しくしてもらえるのは当たり前じゃないんだ」「自分の思い通りにならないこともあるんだ」と気づきます。お子さまによってそれぞれですが、3歳ごろから徐々に相手と自分とは異なる感情をもつことを理解すると言われています。その過程でお子さまどうしのけんかやトラブルが起こるのは当然のこと。温かく見守り、ときに手を差し伸べてあげましょう。

思いやりの心を育てる3つのポイント

【1】相手の気持ちを一緒に考える

人を思いやるには、「相手がどのような気持ちか」を考える力、共感できる力が必要です。しかし、前述の通り、お子さまにとって自分以外の他人の気持ちは簡単に理解できるものではないため、保護者が少しずつ教えてあげる必要があります。まずは、自分の気持ちを客観視できるような声かけをしましょう。「あのときはどんな気持ちだった?」「どうして譲ってあげられなかったのかな?」などです。そして、他者の気持ちを想像させましょう。「あの子はどんな気持ちだったと思う?」「こんなことを言われてあの子はどう思ったかな?」など、こうしたコミュニケーションが、相手の気持ちを感じとる練習になります。

【2】遊びが思いやりを育てる

働くパパや赤ちゃんを育てるママ、先生やヒーローになりきる「ごっこ遊び」は、他人の気持ちや挙動を考えなければ演じられません。絵本を読めば、登場人物の気持ちに寄り添うことを覚えます。また、「こういうことをしてはダメ」ということを知ります。「もう1回!」「もっと!」と、何度もせがまれることもあります。その遊びが思いやりを育てていると思えば、一緒に笑顔で楽しめるのではないのでしょうか。

【3】ものを大切にすることを教える

人だけでなく、動物、食べ物、草花、すべてのものに「感謝」の気持ちをもたせることも大切です。あらゆるものが溢れかえり、蛇口をひねれば水がいくらでも出る現代だからこそ、ものに対するありがたみを感じにくくなっています。「いただきます」「ごちそうさま」を言い、食事に感謝しましょう。自分より小さな動物を大切に扱いましょう。ものを大切にすれば、他人の大切なものや、他人の気持ちも大切に扱うようになります。



感謝

各クラスの「てつだう」についての紹介

<ひよこ組0歳児>

今月のテーマである「手伝う」に繋がるよう、クラス内ではオモチャで遊んだ後の片付けを子ども達も出来るよう、少しずつ取り入れ始めました。片付けられるたびに、「上手だね」と拍手をすると、満面の笑みになる子ども達に癒されます。色んなことを覚えていく時期なので、子ども達の気持ちに寄り添いながら、進めていきます。

<ひよこ組1歳児>

思いやり集会に参加しました。思いやりの歌では、お兄さん、お姉さん達の歌声に聴き入っていたひよこぐみさん。きっと心地良かったのでしょうね。お友だちと日々過ごす中で、困っている姿を見ると「何かをしてあげたい」気持ちが芽生えてきています。手伝ってあげたい気持ちと自分でしたい気持ちがぶつかり合う時も多々ありますが、この経験が思いやりの育ちに繋がるよう、気持ちを受け止めながら見守っていききたいと思います。

<りす組>

思いやり集会に参加し、歌が大好きなりす組さんは口ずさみながら歌を覚えようと必死な姿を見せてくれました。今回のテーマ「てつだう」！りす組ではまさに手伝うブーム到来です♪「困ったな・・・椅子を綺麗にしまってくれるお友達いないかな？」と声を掛けると「いーよー」と遊んでいた玩具を置いて手伝いに来てくれるお友達！そんな友達の姿をみて「僕も！私も！」とたくさんのお手伝い名人が！！声掛けに耳を傾け、手伝ってあげる♪の気持ちがクラス内に広がり、自然と笑顔が溢れています。手伝う楽しさを感じながらこれからも過ごしていきたいです。



<うさぎ組>

「お手伝い、した事ある人～??」とうさぎ組さんに聞いてみると、「お掃除する!」「お洗濯!」「お料理するよ!」などなど、たくさんの声が聞かれました。お家でもお手伝いをしているお友だちが多い事にビックリ!!「お手伝いすると、何て言われるかな?」と聞くと「ありがとう♡って言われるよ」と教えてくれました。お手伝いをする人も、してもらった人も嬉しい気持ちになる事に気付く事ができたので、これからも誰かのためにしてあげる思いやりの気持ちが広がって、ありがたい言葉が溢れるクラスになるといいなと願っています。



<くま組>

くま組では、「てつだう」とはどんな事があるのかをお話していきました。「洗濯物を畳む。」「掃除をする。」「お皿洗いをする。」など、普段子ども達が行っているお手伝いがたくさん出てきました。どうしてお手伝いをするのか?お手伝いをしてもらったら・お手伝いをしたらどんな気持ちになるのかを考えていきました。色々な気持ちが出てきましたが、全て優しさやありがたいの思いに繋がるもので、改めて思いやりや心の大切さに皆で気付く事が出来ました。家族だからこそ、伝える事に恥ずかしさを感じてしまう時もありますが、感謝の気持ちを自分なりの言葉で真っ直ぐに伝えていけるようになればと思います。



<ぞうぐみ>

絵本「じぶんのきもち ともだちのきもち」を読み、気持ちは一人ひとり違い、伝え合うことが大切なことを改めて子ども達と話をしました。ともだちが困っている時にはどんな言葉や行動をしたらいいのか、ともだちを助けたい、何かしてあげたい、そんな気持ちが「てつだう」気持ちに繋がっていることを子ども達と話をしました。日常のたくさんの場面で子ども達がお互いに声を掛け合っている姿が見られます。子ども達自身が周りの人の姿を見て、気付き、「てつだう」気持ちから声を掛け、行動で表現できるように、私たちも日々心掛けていきたいと思っています。

<ぱんだ組>

毎日の登園児が固定されていない為、『思いやり週間』として、毎日、『とってください』の絵本を読みました。皆、繰り返しの言葉を模倣し、行動を真似るようになり、読んでいる担任が毎回、ほっこりした気持ちになりました。また、給食前に、子ども一人一人の行動に対してありがたいを伝えると、嬉しそうな表情を見せてくれました。今後も、手伝うと互いが嬉しい気持ちになる事を伝えていきます。日々の保育や家庭から、思いやりの心が育っていけるようしていきたいですね。

